

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
①職務の理解	講義・演習	7時間	五十嵐 あや子
授業目標 (ねらい)	①「介護」とはどのような仕事なのかを、多角的視点から理解する ②介護保険制度で提供される介護サービスの概要を理解する ③これからの研修に意欲的がもてる		
授業内容	職務の理解 ・介護の資格とキャリアシステム ・「介護職」とは？ ・介護サービスの仕事とは？		
授業計画	1～3時限 はじめに 今後の介護人材キャリアパスと介護職員初任者研修 第1章 職務の理解 第1節 多様なサービスの理解 1. 介護保険による居宅サービス 2. 介護保険による施設サービス 3. 介護保険以外のサービス 講義 DVD視聴 4～6時限 第2節 介護職の仕事内容や働く現場の理解 1. 介護サービスを提供する現場の実際 2. 介護サービスの提供に至るまでの流れ 講義 DVD視聴 資料 介護職が使ってはいけない禁句 演習 「利用者の立場からみた、介護職員の資質とは」 グループワーク 使用物品 模造紙、ポストイット、6色マーカー 7時限 筆記試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）介護のしごとの基礎）		

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
②介護における尊厳の保持・自立支援	講義・演習	10時間	匹田 美紀子
授業目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ。 ・介護に関する基本的な視点（ICF、QOL、ノーマライゼーション）について理解する。 ・利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する。 ・介護における自立とは何かを学ぶ。 ・「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。 ・介護の予防の考え方について理解する。 		
授業計画	<p>第1節 人権と尊厳を支える介護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人権と尊厳の保持 2. ICF 3. QOL 4. ノーマライゼーション 5. 虐待防止・身体拘束禁止 <p>グループワークを含む</p> <p>第2節 自立に向けた介護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自立支援 2. 介護予防 <p>グループワークを含む</p> <p>筆記試験</p>		
評価方法	筆記試験		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）介護のしごとの基礎）		

シラバス

科目名	授業形態	単 位	担当者
③介護の基本	講義・演習	6時間	酒井 賢一
授業目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることが出来る。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職の役割、専門性と多職種との連携 <ul style="list-style-type: none"> (1) 介護環境の特徴の理解（訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性（重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、チームケアの重要性 (3) 介護に関わる職種（異なる専門性を持つ他職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味） ・介護職の職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> (1) 職業倫理（専門職の倫理の意義、介護の倫理、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重） ・介護における安全の確保とリスクマネジメント <ul style="list-style-type: none"> (1) 介護における安全の確保（事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザード） (2) 事故予防、安全対策（リスクマネジメント、分析の手法と視点） (3) 感染対策（感染の原因の排除、感染経路の遮断、「感染」に対する正しい投薬） ・介護職の安全 <ul style="list-style-type: none"> (1) 介護職の安全 (2) 介護職の心得（ストレスマネジメント、腰痛の予防、手洗いうがいの基本） 		
授業計画	<p>1～2 介護職の役割、専門性と多職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴の理解 ・介護の専門性 ・介護に関わる職種 *事例の検討（グループワーク） <p>3～5 介護従事者の倫理 介護職における安全の確保とリスクマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護労働における安全の確保 ・事故防止 *事例の検討（グループワーク） <p>6 介護職員の安全衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員のこころの健康管理 ・介護職員のからだの健康管理 		
評価方法	筆記試験または受講態度により評価		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）介護のしごとの基礎）		

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
④介護・福祉サービスの理解と医療との連携	講義・演習	10時間	金子 一也 長谷 由香
授業目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護・福祉に係る一員として、介護保険法、障害者自立支援法の目的や、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務を理解する。 ・介護者の専門的役割、責務を正確に理解し対象者の生活を考え適切なケアの提供を他職種と協力し提供することが出来る。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度 <ul style="list-style-type: none"> (1) 介護保険制度創設の背景および目的、動向（高齢化に伴う社会的課題） (2) 介護保険制度のしくみの基礎的理解（介護保険制度の概要、保険給付までの流れ、保険給付の種類と内容） (3) 精度を支える財源、組織、団体の機能と役割（国、都道府県、市町村の役割、介護保険財政） ・障害福祉制度及びその他の制度 <ul style="list-style-type: none"> (1) 障害者福祉制度の概念（障害と障害者の概念、障害者福祉理念としての自立） (2) 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解（障害者自立支援法の制定と障害者総合支援法、障害福祉サービスの種類と内容、サービス利用の流れ） ・医療との連携とリハビリテーション <ul style="list-style-type: none"> (1) 医行為と介護（医行為の理解、訪問看護の理解、介護職員と看護職員の連携のポイント） (2) 施設における看護と介護の役割・連携（看護と介護の連携の必要性和ポイント） (3) リハビリテーションの理念（リハビリテーションの意味、歴史と理念） (4) 個人の人権を守る制度の概要 		
授業計画	<p>1～3 介護保険制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・介護保険制度のしくみの基礎的理解 <p>4～6 障害福祉制度およびその他制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 ・障害者自立支援制度及びそのほかの制度 ・障害者福祉制度の概念 ・障害者自立支援制度のしくみの基礎的理解 ・個人の人権を守る制度の概要 <p>7 筆記試験</p> <p>8～9 医療との連携とリハビリテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医行為と介護 ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーションの理念 ・事例の検討（グループワーク） 		
評価方法	筆記試験または受講態度により評価		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）介護のしごとの基礎）		

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
⑤介護職におけるコミュニケーション技術	講義・演習	7時間	酒井 賢一
授業目標 (ねらい)	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、特に介護場面において、ラポール形成につながり、高齢者や障がい者である人の日々の生活に安心が提供できる人材育成を目標とする。		
授業内容	<p>1. 介護におけるコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義、目的、役割 (対人関係とコミュニケーション、効果的なコミュニケーション) ・コミュニケーションの技法 (メッセージの送り手と受け手、コミュニケーションの構成要素と環境、言語、非言語) ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際 (相手の思いを察することの大切さ、受容と共感の大切さ、ラポール形成) ・利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際 (視力障害、聴力障害、失語症、認知症などに応じたコミュニケーション) <p>2. 介護におけるチームのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録における情報の共有化 (記録の種類と必要性) ・報告、連絡、相談 (報告、連絡、相談の意義と目的) ・コミュニケーションを促す環境 		
授業計画	<p>1. 介護におけるコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法 ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際 <p>※講義、演習、グループワーク</p> <p>2. 介護におけるチームのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録における情報の共有化 ・報告、連絡、相談 ・コミュニケーションを促す環境 <p>※講義、演習、グループワーク</p> <p>筆記試験</p>		
評価方法	筆記試験または受講態度により評価		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト (中央法規出版 (株) 介護のしごとの基礎)		

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
⑥老化の理解	講義・演習	6時間	長谷 由香
授業目標 (ねらい)	老化により高齢者の心と体が、どの様に変化するのかを理解し、生活習慣など高齢者に多い疾患・予防法について学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に今求められていることを知り、学ぶ目的を明確にする。 ・老化とは何か。用語の理解と感覚障害、知能低下について学ぶ。 ・人が生きていくとはどういうことか。バイタルサイン、心肺機能について学ぶ。 ・高血圧、虚血性心疾患、糖尿病などの疾患（特に原因、予防法を忘れずに）について学ぶ。 ・高齢期の嚥下に伴う誤嚥とその対処方法について学ぶ。 		
授業計画	<p>1～3 老化の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・事例検討（グループワーク） <p>3～6 高齢者と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の疾病と日常生活の留意点 ・高齢者に多い病気と日常生活の留意点 ・事例検討（グループワーク） ・振り返りチェック 		
評価方法	筆記試験または受講態度により評価		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）介護のしごとの基礎）		

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
⑦認知症の理解	講義・演習	8時間	五十嵐 あや子
授業目標 (ねらい)	<p>①認知症の人を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解できる</p> <p>②認知症の人の医学的背景、心理的特徴、行動の特徴を理解できる</p> <p>③認知症の人とのコミュニケーション技法の理解と、若年性認知症の特徴を理解できる</p> <p>④家族への支援の重要性を理解できる</p>		
授業内容	<p>第7章 認知症の人の理解</p> <p>第1節 認知症を取り巻く環境</p> <p>第2節 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理</p> <p>第3節 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活</p> <p>第4節 家族への支援</p>		
授業計画	<p>1～3時限</p> <p>第7章 認知症の人の理解</p> <p>第1節 認知症の人を取り巻く環境</p> <p>第2節 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理</p> <p>1. 認知症とは</p> <p>2. 認知症の診断</p> <p>3. 認知症の原因疾患とその病態</p> <p>4. 認知症の治療と予防</p> <p>資料 4大認知症疾患の特徴 長谷川式簡易スケール 寝たきり度判定フローチャート あなたは認知を正しく知っているか 認知症ケアパス 食行動の特徴</p> <p>演習 「生活支援の理解」グループワーク DVD視聴 「一人のこころを見つめるケア」</p> <p>4～6時限</p> <p>第3節 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活</p> <p>1. 認知症の人の生活障害、心理的・行動の特徴</p> <p>2. 認知症の人への対応</p> <p>第4節 家族への支援</p> <p>1. 家族へのレスパイトケア</p> <p>2. 家族へのエンパワメント</p> <p>資料 フィーリングの世界 パーソンセンタードケア 中核症状（失行・失認）コミュニケーションの3要素 作者不明のポルトガル語の手紙、避難所でがんばっている認知症の人・家族等への支援ガイド 家族へのメッセージ</p> <p>演習 「認知症の人とのコミュニケーション技術」 必要物品 ポストイット 音読 「手紙～親愛なる子どもたちへ～」</p> <p>7～8時限</p> <p>認知症サポーター</p>		
評価方法	筆記試験		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）介護のしごとの基礎）		

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
⑧障害の理解	講義・演習	3時間	佐山 由起子
授業目標 (ねらい)	<p>障害の概念と I C F、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。</p> <p>障害者を正しく理解し、介護の基本的姿勢を理解する。</p> <p>各々の疾患や症状、介護における留意点について理解する。</p>		
授業内容	<p>障害の基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (1) 身体障害 (視覚、聴覚、平衡、音声・言語・咀嚼、肢体不自由、内部障害) (2) 知的障害 (3) 精神障害 (統合失調症・気分 (感情障害)・依存症などの精神障害、高次脳機能障害) (4) 発達障害 (広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害) ・ 障害の概念と I C F ・ 障害者福祉の基本理念 ・ 家族の心理、かかわり支援の理解 		
授業計画	<p>1 障害の基礎理解</p> <ul style="list-style-type: none"> § 障害の概念 § I C Fの考え方 § 障害者福祉の基本理念 <p>2 障害の医学的側面の基礎理解</p> <ul style="list-style-type: none"> § 視覚障害 § 聴覚・平衡感覚 § 音声・言語・咀嚼機能障害 § 肢体不自由 § 内部障害 § 障害の受容 § 知的障害 § 精神障害 § 高次脳機能障害 § 発達障害 <p>3 家族の心理の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> § 家族の心理 (グループワーク含む) § 家族への支援 (グループワーク含む) 		
評価方法	筆記試験または受講態度により評価		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト (中央法規出版 (株) 介護のしごとの基礎)		

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
⑨介護に関する基礎的理解	講義・演習	12時間	匹田 美紀子
授業目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・理論や法的根拠に基づく介護の基本的な考え方を習得する。 ・介護技術の根拠となる「こころのしくみ（学習、記憶、感情、意欲等）に関する知識を学習する。 ・介護技術の根拠となる「からだのしくみ（人体の構造や機能）に関する知識を学習する。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。 ・「介護」が法的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。 ・学習と記憶に関する基礎的な知識を理解する。 ・感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する。 ・自己概念と生きがい、老化や障害の受容に関する基礎的な知識を理解する。 ・生命の維持、恒常のしくみを理解する。 ・骨や関節など、からだの動きのメカニズムを理解する。 ・神経の種類と、そのはたらきを理解する。 ・眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官のはたらきを理解する。 		
授業計画	<p>第1節 介護の基本的な考え方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理論にもとづく介護 2. 法的根拠にもとづく介護 <p>第2節 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 *グループワークを含む</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習と記憶に関する基礎知識 2. 感情と意欲に関する基礎知識 3. 自己概念と生きがい 4. 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 <p>第3節 介護に関するからだのしくみの基礎知識 *グループワークを含む</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の維持・恒常のしくみ 2. 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 3. 骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 4. 中枢神経と体性神経に関する基礎知識 5. 自律神経と内部器官に関する基礎知識 		
評価方法	筆記試験または受講態度により評価		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）自立に向けた介護の実際）		

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
⑩自立に向けた介護の展開 (生活と家事)	講義・演習	6時間	匹田 美紀子
授業目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、もてる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を継続していくための家事の重要性について学ぶ。 ・家事援助（調理、洗濯、掃除などの援助）は利用者にとってどのような意味があるのかを理解する。 ・家事援助とは何かについて具体的に理解する。 		
授業計画	<p>第1節 生活と家事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活と家事の理解 2. 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 <p>*グループワークを含む</p>		
評価方法	筆記試験または受講態度により評価		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）自立に向けた介護の実際）		

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
⑪ ころとからだのしくみと生活支援技術／快適な居住環境整備と介護	講義・演習	6時間	村上 智実
授業目標 (ねらい)	快適な生活を送るために必要な住環境の整備、利用者が生活の各場面で活用できる福祉用具について理解する。		
授業内容	<p>快適な住環境整備と介護</p> <p>快適な住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法、家庭内に多い事故バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与</p>		
授業計画	<p>快適な住環境整備と介護</p> <p>1 快適な住環境づくり（音・空調・換気・安全と事故防止）</p> <p>高齢者・障害者特有の住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p> <p>2 事例をとおして福祉用具を使用しての介護の演習（グループワーク）</p>		
評価方法	筆記試験または受講態度により評価		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）自立に向けた介護の実際）		

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
⑫ ころとからだのしくみと生活支援技術／ころとからだのしくみと自立に向けた介護	講義・演習	4 4 時間	伊東 利恵
授業目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> 安全な介護サービスの提供の提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立と自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1、整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（整容に関する基礎知識 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身支度、整容行為） 2、移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（移動・移乗に関する基礎知識 様々な移動・移乗に関する用具とその活用方法） 3、食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（食事に関する基礎知識 食事環境の整備・食事に関連した用具、食器の活用方法） 4、入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（入浴・清潔保持に関する基礎知識 様々な入浴用具の活用法） 5、排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（排泄に関する基礎知識 排泄環境整備と排泄用具の活用法） 6、睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（睡眠に関連する基礎知識 睡眠環境整備と快い睡眠を阻害する要因の理解と支援法） 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1～3 睡眠関連（講義） ベッドメイキング（演習） 4～6 整容関連（講義） 自力着脱体験（演習） 7～9 演習をする上での共通確認事項（講義） 関連した演習 10～11 座位での前開き上衣、下衣着脱介助（演習） 12～14 移動・移乗関連（講義） ベッド上での体位変換（演習） 15～17 福祉用具説明 ボディメカニクス活用法（演習） 18～19 杖歩行介助 車いす移乗介助法（演習） 20～22 排泄関連（講義） 排泄用具、おむつ種類説明（演習） 23～25 ポータブルでの排泄介助法、おむつ交換（演習） 26～28 食事関連（講義） 食事関連用具の説明（演習） 29～31 食事介助 口腔ケアの実際（演習） 32～35 入浴関連（講義） 入浴器具の活用法 シャワー浴の介助（演習） 36～38 臥床上着脱介助（寝衣含む）、車いす移乗介助演習 		
評価方法	実技試験、受講態度により評価		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）自立に向けた介護の実際）		

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
⑬ ころとからだのしくみと生活支援 技術／ターミナルケア	講義・演習	3時間	阿部 みつゑ
授業 目 標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアの考え方、対応の仕方・留意点、本人・家族への説明と了解。 ・介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。 		
授 業 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケアの基礎知識から、死にいたる過程、死を迎える高齢者と家族の支援の方法。 (終末期ケアとは、高齢者が死にいたるプロセス、利用者ニーズに寄り添う看取りの要件。在宅ターミナルケアに必要な要件) ・終末期に関する基礎知識 「死」に向かう心の理解 苦痛の少ない死への支援 		
授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識ところとからだのしくみ。 ・「死」に向き合うところの理解。 死に向き合う高齢者の心理、看取りにおける介護職員の基本的態度 緩和ケアのための環境づくり、看取りにおける倫理観 ・事例の演習（グループワーク） 		
評 価 方 法	筆記試験または受講態度により評価		
テ キ ス ト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）自立に向けた介護の実際）		

シラバス

科目名	授業形態	単 位	担当者
⑭ ころとからだのしくみと生活支援技術／生活支援技術演習	講義・演習	10時間	高澤 裕美子
授業目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の各場面での介護について、事例を通じて、生活支援を提供する流れを理解し、技術を習得する ・利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点を習得する 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的と意義について理解する ・介護過程の展開プロセスについて理解する ・チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について理解する ・事例を通して、利用者のころとからだの力が発揮できない要因を分析する ・事例を通して、利用者本人にとって適切な支援技術は何かを検討する ・事例を通して、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点について理解する 		
授業計画	<p>1～3時間：介護過程の基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的・意義・展開 ・介護過程とチームアプローチ <p>4～6時間：総合生活支援技術演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例による展開演習（1） <p>7～9時間：総合生活支援技術演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例による展開演習（2） <p>10時間：まとめ</p>		
評価方法	筆記試験または受講態度により評価		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）自立に向けた介護の実際）		

シラバス

科 目 名	授業形態	単 位	担当者
⑮振り返り	講義・演習	4時間	豊島 節子
授業目標 (ねらい)	研修全体を振り返り、この研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の確認をはかる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・この研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことの理解 ・就業への備えと研修終了後における継続的な研修継続的に学ぶべきこと 研修終了後における継続的な研修的を促す（将来の資格取得に向けて） 		
授業計画	<p>この講習の全過程を振り返り、研修を通じて学んだこと、習得したことについての再確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、この講習で学んだこと。 2、介護職員として就業後も継続して学ぶべきこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・身につける知識 ・身につける技術 3、根拠に基づく介護の要点 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の自立を支援する介護のあり方 ・利用者の状態に応じた介護と介護過程 ・チームアプローチの重要性について 4、一人ひとりレポートにまとめて発表する 		
評価方法	筆記試験または受講態度により評価		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版（株）自立に向けた介護の実際）		